

算数科 小学校 3年

単元名「あまりのあるわり算」
啓林館 わくわく算数3上

単元の流れ（全12時間）

【第1次】 主な学習内容

- ◇第1時 既習内容と生活場面による、あまりのあるわり算についての動機付けをする。

【第2次】 主な学習内容

- ◇第2時 包含除で、あまりのあるわり算の意味を理解する。
- ◇第3時 余りは、いつもわる数より小さくなることを理解する。
- ◇第4時 等分除で、あまりのあるわり算の意味を理解する。筆算での計算方法を知る。
- ◇第5時 あまりのあるわり算の計算をする。
- ◇第6時 あまりのあるわり算の答えの確かめをする。

「知識・技能」を定着させるために

- ・第2時～ 式の書き方と読み方をノートに書かせ、かつ言葉で唱えさせることにより定着を図る。
- ・第5時～ わり算の計算をした後、あまりがわる数より小さくなっているかどうか、必ず見直しをさせる。
- ・第6時 割る数とあまりの数に○をつけて、比べさせる。

【第3次】 主な学習内容

- ◇第7時 練習問題を解く。

「知識・技能」を定着させるために

- ・答えの確かめを習慣付けるようにさせる。

【第4次】 主な学習内容

- ◇第8時 余りを切り捨てて処理する問題を理解し、解く。
- ◇第9時 余りを切り上げて処理する問題を理解し、解く。
(本時)
- ◇第10時 練習問題を解く。(切り捨て、切り上げ問題)

「活用」の力の育成のために

- ・第8時～ 線分図やブロックを使って説明できるようにさせる。

【第5次】 主な学習内容

- ◇第11時 練習問題を解く。
- ◇第12時 評価テストをする。

評価問題

CLICK

「知識・技能」を定着させるために

- ・第11時～ 補充問題を準備し、習熟させる。課題と考えられる内容に取り組み、定着を図る。

単元目標

○わり算のあまりの意味を理解し、あまりのあるわり算の計算をする。また、場面に応じて、適切にあまりの処理をする。

単元構成の意図

本単元では、あまりのあるわり算の意味やその計算の仕方について学習していく。

まず、包含除の導入を行い、あまりの意味、わり切れない場合の式の表し方について明らかにする。全体をいくつかずつ同じように分ける方が、あまりの数も分かりやすい。次に等分除の場合を扱う。

児童の中には、「かけ算九九の適用だけでは、答えが求められない」ことから、わり算の式に表してよいか迷う児童もいる。そこで、具体的な場面において、操作は同じでも、あまりがでる場合とでない場合があることを丁寧に扱い、あまりがでた場合でもわり算の式になることを理解させる。

日常生活の中では、あまりを出しっぱなしで終わるのではなく、あまりを処理して1つの数で言い表す場面もある。そこで、実生活でよく見られる問題を取り上げ、問題に応じてあまりを処理していく。どんな時にあまりを切り上げ、どんな時に切り捨てるのかを、具体的な場面と対応させながら、あまりの処理の必然性や仕方について理解させていく。

イメージし理解できるように具体物やブロック、絵や図を使うなどの操作活動を重視する。

「活用」の力を育てる ポイント

- ① 題意を理解させるために、文中の言葉に注目させる。
「わかっていること」 直線
「たずねていること」 波線
以上の2点に印を付けさせる。
- ② 図をかくことにより、場面のイメージをつかませる。
- ③ 友達に、自分の考えたことを、自分の言葉で伝えることで、説明する力を付けさせる。

「知識・技能」定着のための ポイント

- ① 答えを確かめるための2つの条件を確かめさせる。
(1) 余り<わる数
(2) わる数×答え+あまり=わられる数
- ② 式をノートに書かせ、言葉で唱えさせて定着を図る。
- ③ 授業中や宿題にドリルプリント、単元の終わりに練習問題を出し、習熟させる。

詳しい単元計画はこちら

CLICK

HOME

本時の流れへ